

日風園

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第98号 平成29年(2017)7月1日

資料見聞

諸国門人姓名録

石畑 匡基

昨年の大河ドラマで話題となった「大坂の陣」。これ以降、いくつかの一揆は発生したものの、基本的には大規模な内戦は起こりませんでした。江戸時代が「泰平の世」とも呼ばれる所以です。しかしながら、戦う集団である武士は剣術を学び続け、江戸時代には七〇〇もの流派が誕生しました。

その剣術が最も実用性を帯びたのが幕末の世です。土佐藩でも盛んに学ばれ、坂本龍馬や武市半平太ら多くの志士が江戸の三大道場と呼ばれた鏡新明智流の桃井道場、北辰一刀流の千葉道場、神道無念流の斎藤道場などの門を叩きました。

一方で、誰もが江戸へ行けるわけではありません。そのため、土佐藩内にも多くの道場がつかられ、藩校でも教えられました。例えば、慶応元年(一八六五)に設立された致道館では、大石神影流が教えられました。



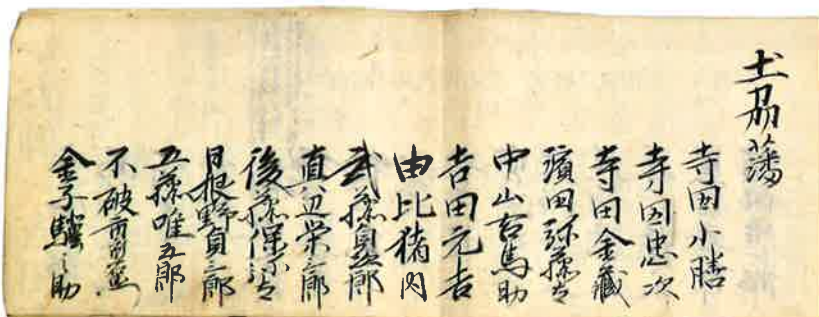
諸国門人姓名録 個人蔵

大石神影流は、柳河藩士・大石種次が創立した流派で、剣道でいまでも用いられる竹刀を考案したことで知られます。今回、紹介する資料は、その大石種次と子息・大石種昌の門人を記載した『諸国門人姓名録』です。

この資料には大石氏二代にわたる惣門人数六五五名が記されており、四国からは七六名。その内、土佐藩士は六〇名が名を連ねており、土佐藩の門人が飛び抜けて多いことがわかるでしょう。それもそのはず、二代目大石種昌は土佐藩に招かれ、藩士を指導したことがあります。その際に、多くの土佐藩士が門下生となったため、藩校でも教えられるようになったのです。門下生の中には「後藤保弥太」という人物が確認できます。なにを隠そうこの人こそが、のちの後藤象二郎です。また、右に目を移すと彼を養育した師匠「吉田元吉」こと、吉田東洋の名も確認されます。酒席での失敗で罷免されていた東洋

が私塾・少林(鶴田)塾を開き、象二郎や岩崎弥太郎などに薫陶を与えたことは有名ですが、『諸国門人姓名録』からは、学問だけでなく、剣術でも互いに汗を流していたことが判明します。

なお、あまり知られていませんが、後藤象二郎は剣の達人に成長し、慶応四年二月にイギリス公使・パークスが京都で襲撃を受けた際、随行していた象二郎が賊を撃退し、ヴィクトリア女王から勲章と宝剣を授与されています。



▲後藤保弥太

▲吉田元吉



志国高知 幕末維新博 関連企画第3弾

大政奉還を「象」つた男 後藤象二郎

平成29年7月15日(土)～9月18日(月・祝)

石畑 匡基

幼なじみの親友・板垣(乾)退助

大政奉還から一五〇年の節目となる本年「志国高知 幕末維新博」が始まり、高知県内各地で歴史をテーマにしたイベントや展示が盛り上がりを見せられています。さらに、本年は坂本龍馬没後一五〇年にも当たり、他県でも龍馬に関する展示が行われています。

実は、その龍馬とともに大政奉還実現のため奔走した土佐藩士・後藤象二郎の没後一二〇年にもあたるという事実をどれほどの方がご存知でしょうか。そもそも、後藤象二郎を「知ってるつもり」な人も多いのではないのでしょうか。そこで、「志国高知 幕末維新博」関連企画第3弾となる本展では、板垣退助・吉田東洋・坂本龍馬ら象二郎に影響を与えた人びとの資料を軸に、大政奉還に至るまでの、知られざるその半生に迫ります。



後藤象二郎湿板写真(館蔵)



写真1 ヴィトン社製トランク
(高知市立自由民権記念館寄託)



板垣退助肖像写真
(当館寄託)

明治三〇年(一八九七)八月四日、後藤象二郎は六〇年の生涯を閉じました。同月八日に行われた葬儀において追悼の演説を行ったのが、板垣(乾)退助でした。板垣は象二郎を「やす」、象二郎は板垣を「いのす」と呼び合う親友。板垣が象二郎とともに購入したトランク(写真1)や、板垣を想って詠んだ詩書(写真2)が残されています。



写真2 後藤象二郎詩書
(館蔵)

象二郎を導いた師・吉田東洋

幼くして父を亡くした象二郎を養育したのが吉田東洋でした。彼が開いた少林塾には多くの若者が集い、象二郎だけでなく、福岡孝弟や岩崎弥太郎など明治の日本を動かした人材も育ちました。

しかしながら、文久二年(一八六二)四月、東洋は凶刃に倒れます。それは、象二郎にとって苦難の始まりでした。新し物好きな東洋が江戸で撮影した写真(写真3)や、意外なことに相撲好きの一面が垣間見える書状(写真4)を展示します。

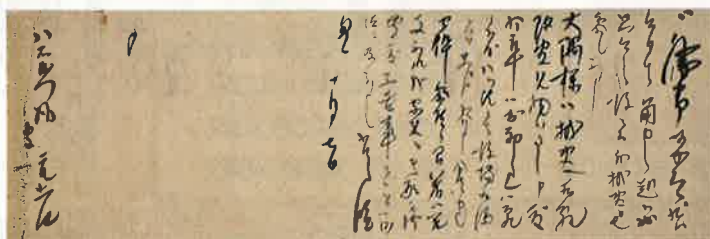


写真4 吉田東洋書状 八右衛門宛(館蔵)



写真3 吉田東洋湿板写真
(高知県立高知城歴史博物館蔵)

象二郎を抜擢した御隠居・山内容堂

慶応二年（一八六六）、土佐藩の殖産・富強を目指した御隠居・山内容堂が主導し、開成館が設置されました。象二郎はその運営を司る開成館奉行に抜擢され、富国強兵に向けた事業を一手に担います。

開成館には、

軍艦・貨殖・捕鯨・医・訳などの各部署が設けられ、西洋の学問・技術を積極的



山内容堂湿板写真（館蔵）

に取り入れました。一方で、多額の運営費を要したことから「阿房館」と揶揄されることも。象二郎はそれらを乗り越えることはできたのでしょうか。ここでは、開成館の建物に使用された建具や蔵書などを紹介します。



写真5 開成館蔵書印

（高知県立高知追手前高等学校蔵本より）



写真6 開成館瓦
（高知県立高知小津高等学校蔵）

ビジネスパートナー！坂本龍馬

開成館の事業の一環として長崎を訪問していた象二郎は坂本龍馬と運命の出会いを遂げます。慶応三年（一八六七）二月、象二郎と龍馬は長崎の料亭・清風亭で初めて顔を合わせ、意気投合した両者により、大

政奉還の秘策が生み出されました。

また、

長崎に

おいて象二郎は蒸気船・夕顔艦を購入しました。長崎から京都へ向かう船上で龍馬は象二郎に対して、世に名高い「船中八策」を示したとも言われ、大政奉還へと徐々に加速していきます。そんな夕顔にまつわる資料も公開します。



坂本龍馬湿板写真（館蔵）



写真7 夕顔艦絵馬（仁井田神社蔵）



写真8

夕顔艦蔵書印

（高知県立高知追手前高等学校蔵本より）

象二郎が「象」った

大政奉還とは？

慶応三年九月、山内容堂は大政奉還建白書を作成し、翌月将軍・徳川慶喜へ提出しました。これにより、慶喜は大政奉還を決めます。この建白書の副書に象二郎は名を連ねています（写真9）。さらに、この建白書を運ぶ任務も命じられていました（写真10）。

ここで紹介した資料はほんの一部です。ぜひ象二郎の活躍をその目でお確かめください。なお、

今回紹介した象二郎・

東洋・容堂・龍馬の湿

板写真の原板が八月四

〜七日の期間限定で登

場。お見逃しなく！

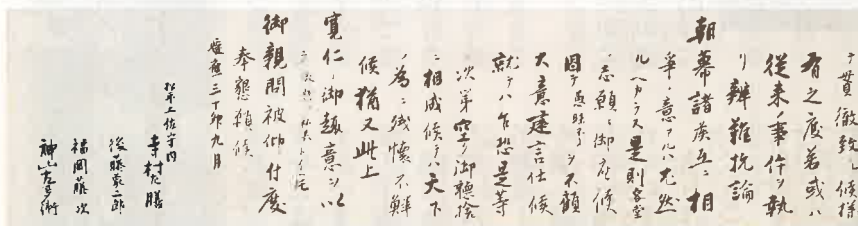


写真9 大政奉還建白書副書（部分・足立隆文氏蔵）



写真10 後藤象二郎書状 真辺栄三郎宛（館蔵）

秋の特別展

「今を生きる禅文化」 —伝播から維新を越えて—

那須 望

みなさんは、「禅」という言葉から、なにを想像しますか。厳しい修行や瞑想、精進料理……。最近では、生きるヒントとしての禅的な思想にも注目が集まっています。いずれにせよ、日常生活とは少し離れた遠い存在と思われる方が多いかもしれません。

しかし、禅は案外、私たちの身近にあふれています。たとえば、「以心伝心」や「一期一会」という言葉は、実は禅の思想が由来となっています。

禅の世界では、悟りは言葉や文字で伝えられるものではなく、師のここから弟子のころへ直接「以心伝心」で伝わるものと考えられています。これは、決して經典を軽んじているのではなく、真実を体験することが言葉よりも先にあるはずだという考えによるものです。

また、禅では「今、この瞬間」を大切にします。当たり前のようにも聞こえますが、私たちは毎日の生活の中で、お風呂につかりながら今日の失敗を反省したり、食事をしながら明日の仕事や将来の心配をしたりしているもので

す。けれど、お風呂ではゆったりリラックスし、おいしい食事をきちんと味わうこと、まさに「一期一会」のこの一瞬に集中することが重要だと考えられています。

ほかにも、茶の湯や能など、わたしたちが日本文化として認識しているもののなかにも、禅に影響を受けて発展してきたものがあります。

本展では、禅がいつどのようなうまれ、発展し、明治維新の苦難を越えて、今も生き続けているかを、大きく4つの章にわけて紹介する予定です。

このうち、第1章では、インドで誕生した禅が、中国を経て日本に伝わり発展していく歴史を大観します。

室町時代に全盛期を迎えた日本の禅文化のなかで生み出された、京都を中心とする禅宗寺院のご宝物を一堂に展示します。

これまで四国では展示されたことのない国宝、重要文化財を含む珠玉の名宝をぜひこの機会にご覧ください。



《龍虎図屏風》左隻 重文、京都妙心寺蔵
画像提供：京都国立博物館 ※四国では初公開

志国高知 幕末維新博 第5弾

妙國寺の十一烈士遺品

「堺事件—150年の時を経て—」速報②

前号でもご紹介したとおり、フランス水兵殺傷事件の責任を取り、土佐藩士十一名が切腹したのですが、その現場となった堺市・妙國寺には、今でも切腹した藩士らの遺品が大切に保存されています。5月9日（火）、お寺様の特別のご配慮により、悉皆調査をさせていただきます。

数々の遺品のなかで最も驚かされたのが、土佐藩の堺駐屯部隊の隊旗が遺されていたことです。お寺側の記録に

よれば、かつては3枚の隊旗が遺されていたとのこと。かなり傷んではいますが、まぎれもなく「紺白紺」の土佐藩の手旗とみられます。

他にも、十一烈士の肖像図をはじめ、六番・八番隊の両隊長が使用したという陣笠。切腹時に使用した短刀と三方や髻（遺髪）の一部など、生々しい歴史の一場面を物語るものが幾つも遺されていました。

当日は、地元堺市博物館の学芸員さんにもご同行いただき、貴重なご指導・ご助言をいただきました。今後も各地で関連調査を進めてまいります。（野本）



妙國寺展示室風景



妙國寺本堂における調査風景

マンガ「サムライせんせい」
とのコラボレーション

呼ぶマンガ「サムライせんせい」の原画の一部を使用させていただきました。土佐勤王党の結党から壊滅までの歴史を、原画入りのパネルを設置してご紹介するという、当館としては画期的な展示構成となりました。マンガの力は絶大だったようで、入り口付近で動かなくなるお客様もいたようです。(野本)



「オリジナルのセリフを入れてみよう!」
パネルも設置

武市半平太の最期

[illegible]

一藩勤王

[illegible]

天誅の名のもとに

[illegible]

平平太の誤算

[illegible]

容堂の勤王党弾圧

[illegible]

展示室内での撮影自由化に向けて

現在、当館の展示室内で自由撮影が可能となっているのは、長宗我部展示室内の本陣コーナーのみで、その他の展示室内での撮影は、事前許可制となっています。しかし、ご来館のお客様が

影フリー化に取り組む必要性を感じています。また、来館者による情報発信は、館の広報の機会が増えることにもつながることなので、歓迎すべきことと考えております。

ら、展示室内での資料撮影を事前の許可無く自由にしてほしいというご意見が度々寄せられるようになりました。

展示観覧のみでなく、撮影を行うことで、より文化財に親しみたいというお客様の要望の背景には、急速に普及したスマートフォンの存在があると

遅ればせながら、3階の常設展示（通常展示）の撮影フリー化に向けて、館内でクリアすべき事項を整理しました。資料の保護はいうまでもありません。また、観覧の妨げにならないことも重要です。これらは、フラッシュ使用は禁止ということで解決できます。

用して、気軽に情報発信を行える環境が整ってきたことも理由の一つに挙げられると思います。

次に課題となるのが、借用資料や受託資料など館蔵以外の資料所蔵者の意向を確認することです。館蔵以外の資料撮影については、所蔵者の承諾が前

最近は、国立の博物館をはじめ、全国的に常設展示を中心に撮影フリーの博物館が増えてきているようです。また、昨秋当館に巡回の「発掘された日本列島2016」展は、国民の皆様が発掘調査成果に接する機会を設ける、という趣旨の展覧会であったので、出品資料は全点撮影可とされ、観覧者にご好評でした。

提となりますので、順次、承諾のお願いをしているところです。この確認作業は、今夏を目処に終えたいと考えています。しかしながら、一部の資料については所蔵者の承諾が得られない場合もあります。また、刊行物に資料写真の掲載を行うことなどは従来どおり事前の申請手続きを要します。

3階総合展示室の自由撮影解禁とな

当館においても、文化財に親しみ、資料館を更に活用いただくために、撮

るまで、今しばらくお待ちください。
(曾我)

岡豊城跡に注目あれ！



土佐の戦国武将・長宗我部氏が城を構えた岡豊山。現在は建物こそ残っていませんが、山の頂上部には、詰、二ノ段、三ノ段などから構成される主郭部の遺構を、斜面には、壮大な横堀と土塁、竪堀群などの堅固な守りを見ることができることから、岡豊城跡は四国の戦国期城郭を代表する遺跡として、平成20年7月に国史跡に指定されています。

そして、平成29年4月には、岡豊城として、「続日本100名城」に選定されました（公益財団法人 日本城郭協会 発表）。

今、この岡豊城跡が「志国高知 幕末維新博」で熱く盛り上がっています。お誘いの声をお聞きください。

櫓からのお便り



凄い「櫓」！

「お山の博物館」と呼ばれる当館が、幕末維新博の間の為だけに、岡豊城跡詰に「櫓」を上げました。（4月1日より一般公開しています。）

ここで言うお山とは、もちろん岡豊山の国史跡・岡豊城跡を指します。お山の頂上・詰というところに、酢漿草の家紋のぼり旗と共に「櫓」があります。

長宗我部氏の城をイメージしており、中に入ると素晴らしい光景が心を和ませてくれます。

現在と中世のコラボレーションに、色々な事を思い感じさせられるのではないのでしょうか。

しっかりとした木材で重厚に建ててあるので、

お山にも馴染んでいます。

「木材が立派ですね、いい香りがする。」

「長宗我部元親の気分になった。」

「絶景で素晴らしい。」

「限定なんてもったいないね。」とお客様の声。

お褒めの言葉が多くあり、きっと「櫓」も喜んでいると思います。もっともっと「櫓」に喜んでもらうには・・・。

春夏秋冬、四季折々の様々な自然と山城との取り合わせが、何かを感じさせ、伝えてくれます。

歴史館開催中の館のスタンプラリーでもできます。

歴史館にお越しの際は櫓までいかがでしょうか？

「櫓」は凄い！感動をお届けする「櫓」です。

（櫓垣）

●入場料：無料

●開場期間：平成29年4月1日～平成31年2月28日
歴史民俗資料館の休館日（年末年始12/27～1/1）は除きます。

●開場時間：午前9時～午後5時（入場は4時45分）

※お願い：雨天・荒天時や、定員超過などによる危険があるときは、入場を制限させていただきます。

岡豊城跡をご案内します！

岡豊城跡について知りたい方や、自然散策を楽しみたい方などを案内人がお手伝いします。岡豊山の美しい自然の中、デコボコの坂道を歩くと少し息が切れます。でも、とっても爽快な気分になります。山城の作りなどについて案内人の解説を聞き、歴史のロマンに浸ってみませんか？

●案内実施期間：

平成29年4月1日～平成31年3月末

（「志国高知 幕末維新博」の開催期間中）
年末年始（12/27～1/1）の休館日は除きます。

雨天や荒天時は中止します。

●案内料：無料

●案内日：毎週土曜・日曜日及び祝日

●出発時間：午前10時と午後2時

●所要時間：約30～40分

案内希望の方は、長宗我部元親飛翔之像前（当館エントランス前広場）に出発時刻前にお集まりください。事前予約は不要です。

※上記以外の日時での案内も、希望日の2日前までに予約いただければ、できる限り対応いたします。詳しくは、歴史民俗資料館までお問い合わせください。



長宗我部展示室初のコーナー展 頭形兜の世界

8月13日まで

現在、岡豊山には櫓が仮設されており、幕末と同時に、長宗我部氏や戦国時代にも関心のあるお客様が多数ご来館されています。そうした方達に一層関心を深めていただくため、戦国期頃に流行した兜だけを集めたコーナー展を開催しています。

「頭形兜」というのは、数ある兜の型式のなかの一つです。元来武士の頭部を守る兜といえ、源平の頃より星兜・筋兜が主流でした。しかし、新兵器鉄砲の登場により、個人戦から小集団同士の戦いへと、合戦の様相が大きく変化するなかで、騎馬武者の多くが、騎乗せず下馬したまま長時間戦うようになりました。こうして軽量化された兜が必要になるなかで誕生したのが、文字通り頭の形に



鉄地茶漆塗五枚張鉾留頭形兜

添うよう

な流線型

をした頭

形兜でし

た。戦国

時代も末

期になる

と、数千

数万単位

で戦うよ

うな大集

団戦が行

われるよう

になります。

頭形兜は製作工

程が短く、

地方でも比較

的安価で量産で

き、また修理も

できるという利

点があつたため、各

地の戦国大名に

採用されまし

た。当初は、下

級武士たちが

着用していま

しましたが、次

第に上級の武

士たちにも愛

用されるよう

になり、桃山

期には身分に



ました。

土佐でも、高岡郡仁井田郷の地侍五人

衆がござって高岡神社に奉納した兜が現

存していますが、そのうちの2点が室町

後期の古式ゆかしい古頭形型式です。

今回小田満博さんより借用した頭形兜

は、製作年代はまちまちですが、戦国の

世をイメージさせるような魅力的なもの

ばかりです。是非仁井田五人衆の頭形兜

と比較しながらご覧覧ください。

(野本)

土佐のまほろばウォーク

総務事業課

当館が立地する岡豊山及び周辺地区の文化遺産を活用し、地域の振興を図ることを目的とし、自治体などの協力を得て公民館、公共施設、社寺、民間企業などが会員となり、平成20年に結成されたのが、「土佐のまほろば地区振興協議会」です。この協議会と共催で毎年実施しているのが、まほろばウォークです。

4月20日に行われたコースは、当館の立地する『長宗我部氏の山城・岡豊城跡をめぐる』ウォークでした。スタートは「長宗我部元親飛翔之像」前、そこから岡豊城跡二ノ段に登っていきます。一周しても距離は長くないのですが、高低差と見所は抜群の岡豊城跡。約3時間に及ぶウォーキングは、土塁(土が盛られています。うっかり乗ら



4月20日 岡豊城跡にてガイドの説明を聞く参加者

ないようにお願いします！)や豎堀(山の斜面に上から下へ向けて掘られた堀。敵が上がつてくるのを妨ぎます！)など、知らずに見逃してしまうポイントをガイドの村上さんがしつかり説明(なるほど)。そしてこちらも見逃せない、今年4月にお目見えした櫓にも登りました。高知平野や遠く望む太平洋など、いつもより少し高い視点から見ると、少し違った景色が飛び込んできます。

健康のためのウォーキングと、身近な岡豊山の史跡を学ぶこのコース。10月18日にも予定していますので、ご希望の方は当館までお電話を！(定員になり次第受付終了)

5月4日は、『坂本龍馬のルーツをたずねる』コースでした。当館から南国市才谷にある坂本家初代・2代・3代のお墓まで歩くもの。今年度予定しているコースの中で最長距離となりました。この『坂本龍馬のルーツをたずねる』コースは大変人気があり、秋にもう一度開催するかも？です。当館HPなど、チェックしておいてください。※『まほろばウォーク』は龍馬パスポートⅢ体験イベント・高知家健康スポーツ対象イベントです。

特別展

今を生きる禅文化

—伝播から維新を越えて—

鎌倉時代に日本に伝わった禅宗は、室町時代に全盛期を迎えますが、その裏側には、土佐出身の二人の高僧の活躍がありました。本展では、京都を中心に県内外の禅宗寺院の貴重な宝物を一挙にご紹介するこれまでにない展覧会です。ぜひお見逃しなく!



木造菩薩坐像
重文・養花院蔵

会 期：平成29年10月14日(土)～
11月26日(日)

観覧料：大人当日1,200円(前売1,000円)、
高校生以下無料

予告!!

企画展

志国高知 幕末維新博関連企画第3弾!

大政奉還を「象」った男 後藤象二郎

平成29年 7月15日(土)～9月18日(月・祝)

大政奉還から150年にあたる本年は後藤象二郎の没後120年に当たります。後藤象二郎を主役として、あまり注目されてこなかった、大政奉還実現までの彼の半生に迫ります。



●公演「大石神影流剣術演武」

平成29年8月6日(日)

(午前の部 10:30・午後の部 13:30)

●申込不要・観覧券要

指導・実演 貫汪館 館長 森本邦生氏

体験：大石神影流の構えなど 各部当日先着20名

●連続講座「土佐藩の職制」●担当学芸員・要予約

・平成29年9月3日(日) 14:00～15:30

初級編「土佐藩士の出世」

・平成29年9月17日(日) 14:00～15:30

上級編「土佐藩における仕置役とその職掌」

●ミュージアムトーク

「大政奉還を「象」った男 後藤象二郎」●担当学芸員・予約不要

平成29年7月30日(日)、8月5日(土)、9月18日(月・祝)

14:00～14:30 ※講座・ミュージアムトーク共に観覧券要

●ワクワクワーク

「蒸気船ぽんぽん夕顔丸を作ろう」●予約要 定員15名

8月12日(土)13:00～15:00 ●参加費要

新刊紹介

研究紀要

高知県立歴史民俗資料館 研究紀要第21号

A4版 66頁

700円(送料300円)



●論文

「土佐藩における「諸国城割令」の受容と破城」……石畑匡基

●研究ノート

「長宗我部信親発給文書に関する若干の考察」……野本 亮

●史料紹介

「第2回ブラジル移民船旅順丸の航海日誌」……石畑匡基

コーナー展のご案内

幕末維新博関連企画!

●総合展示室 (3F)

「土佐に影響を与えた人びと」開催中～8月30日(水)

●長宗我部展示室 (2F)

「国史跡・岡豊城跡」開催中

「頭形兜の世界」開催中～8月13日(日)

「武家の表道具 鎧」8月14日(月)～10月3日(火)



楽しさ満載の4日間!

れきみん 夏の子ども博物館

「志国高知 幕末維新博」にあわせ、子ども向けの体験型プログラムをたくさん用意。ぜひ、知る喜び、作る楽しさをご体験ください。

7月30日(日)・8月6日(日)

8月12日(土)・8月26日(土)

子ども学芸員になろう、マイ妖怪図鑑・竹とんぼ・竹水鉄砲・行燈・ミニぞうりづくり、甲冑体験、など 詳しくは、当館ホームページかチラシで



岡豊風日(おごうふうじつ) 第98号
平成29年7月1日
編集・発行 (公財)高知県文化財団
高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL 088(862)2211
FAX 088(862)2110
開館時間 午前9時～午後5時
休館日 年末年始12月27日～1月1日
臨時休館あり
観覧料 (通常展)大人(18才以上)460円
団体(20人以上)360円
(企画展)通常展510円
団体(20人以上)410円
無料…高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)
印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp